

序

興福寺では、平成10年度から同19年度までの10年間で境内整備事業の第1期とし、現在、伽藍中央部の整備に取り組みつづける。もとより、それは、精緻な発掘調査の結果をふまえたものでなければならぬから、自ずから調査期間も長くなっていく。

しかし、それだけに、数々の貴重な知見を見いだしていることは、既刊の「第1期境内整備事業にともなう発掘調査概報Ⅰ」「同Ⅱ」によって理解される通りである。

それにつづくこの「同概報Ⅲ」では、平成12・13年度に行われた中金堂基壇全面とその周辺にかかわる調査結果を報告するものである。中門西半部分と同様、地山削りだし工法によって造成された創建期基壇の全容、あるいは、その外周の雨落溝が明らかになったことなどは、今後の基壇整備にとって重要であろう。

そして、これらの発掘調査およびその結果が、享保2年（1717）に失われて久しい中金堂復原への貴重な一歩であることを、大きく記憶に留めたいと思う。

この発掘調査も、奈良文化財研究所によって鋭意実施された。ここに、深く謝意を表すものである。

平成14年3月

興福寺貫首 多川俊映